

循環器内科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	大動脈弁逆流症評価における腹部大動脈拡張期逆行性血流波形の計測部位による診断精度の違いに関する検討
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 天野哲也
研究責任者	(所属) 内科学講座(循環器内科) (職名) 教授 (氏名) 天野哲也
研究の対象となる方	2024年4月から2028年3月までに大動脈弁狭窄症の精査のために経胸壁心エコー図検査が施行された20歳以上の患者さん
研究期間	研究実施承認日～2028年12月31日
研究目的及び利用方法	<p>〔研究目的〕</p> <p>重症大動脈弁逆流症(AR)は生命の危険があり、外科的手術を行うことで治療できるため、重症ARの正確な診断が重要です。ARの重症度診断は主に心エコー図検査によって行われます。ARの重症度診断の方法の一つに、腹部大動脈拡張期血流波形パターンによる評価があります。重症ARであれば、拡張期に大動脈内の血液が左室内に逆流する現象に着目した評価方法であり、逆流波形が拡張末期まで認めた場合に重症ARと診断されます(日本循環器学会 循環器超音波検査の適応と判読ガイドライン)。しかしながら、腹部大動脈の描出部位に関する違いはガイドライン上も記載はなく、過去の文献でも明らかではありません。</p> <p>本研究の目的は、重症ARの診断精度を近位腹部大動脈と遠位腹部大動脈の拡張期逆行性血流波形のそれぞれで比較検討し、重症ARの診断により有効な腹部大動脈血流波形の指標を明らかにすることです。</p> <p>〔利用方法〕</p> <p>心エコー図検査の計測値と電子カルテから患者さんのデータ(身長・体重、病歴、血液検査など)を個人が特定されない形で収集し、データからARの重症度を診断したのち、重症ARの診断精度を近位腹部大動脈と遠位腹部大動脈の拡張期逆行性血流波形のそれぞれで比較検討し、重症ARの診断により有効な腹部大動脈血流波形の指標を明らかにします。</p> <p>〔外部への試料・情報の提供〕</p> <p>非該当</p> <p>〔外部への提供開始日〕</p> <p>非該当</p>

研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	試料：非該当 情報：診療録(カルテ)から、年齢、性別、既往歴、血液検査結果、心エコー図所見等を収集。
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当
試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2028年11月30日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 循環器内科 担当者：(職名) 助教 (氏名) 鈴木航 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 23490)